九州・山口県の火山活動
（令和7年12月1日～令和8年1月20日）

令　和　8　年　1　月　2　0　日
福　岡　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

・<u>薩摩硫黄島で噴火が発生（2024年９月３日以来）。</u>

・他の管内火山の活動に特段の変化はない。

薩摩硫黄島　噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

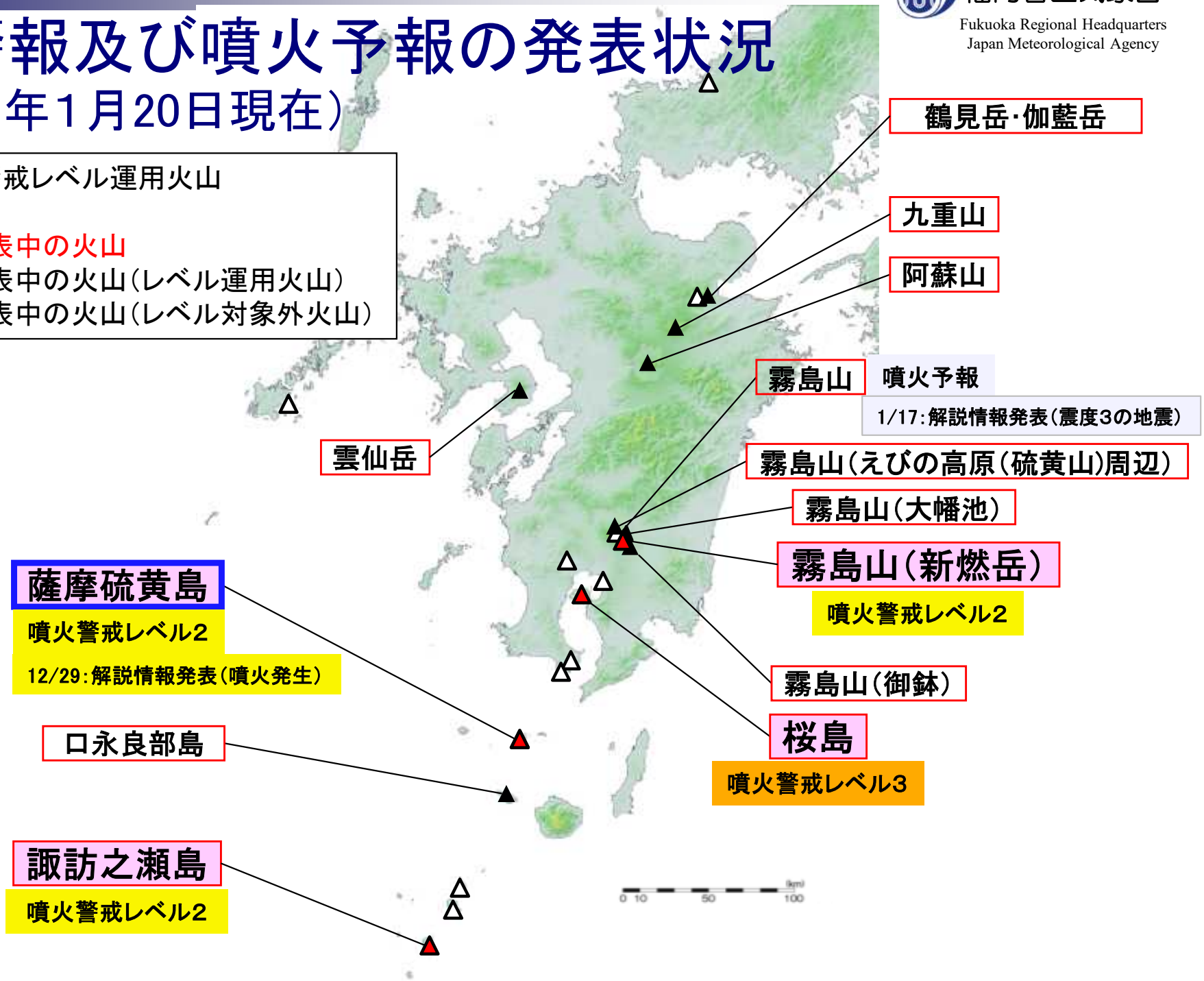
硫黄岳火口中心から概ね0．5kmの範囲では、噴火に伴い飛散する大きな噴石に警戒。
風下側では、遠方まで火山灰、小さな噴石に注意。火山ガスにも注意。
地元自治体の指示に従う。

・<u>硫黄岳火口で12月29日に噴火が発生</u>（2024年９月３日以来）。
・噴火の前後で火山活動に特段の変化はみられていない。

噴火警報及び噴火予報の発表状況
（令和8年1月20日現在）

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲噴火警報発表中の火山
▲噴火予報発表中の火山（レベル運用火山）
△噴火予報発表中の火山（レベル対象外火山）



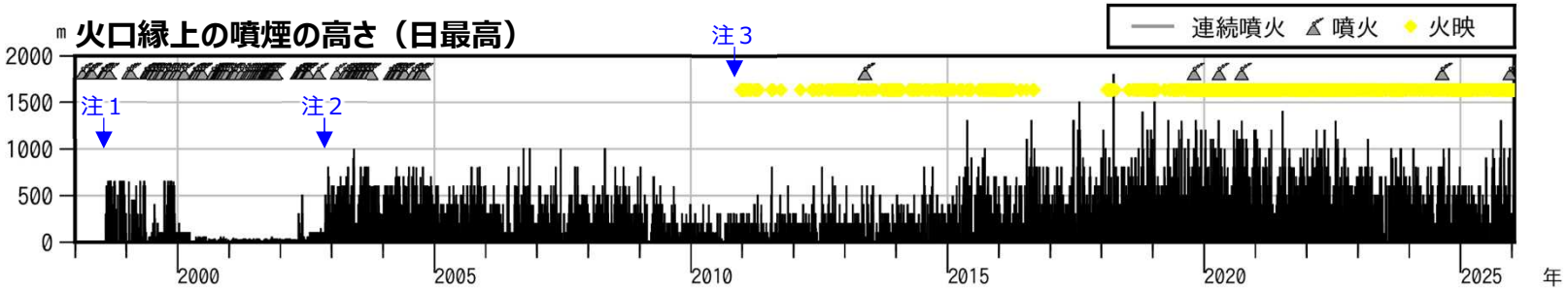
薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

■ 噴火

- 2025年12月29日02時08分に噴火が発生し、噴煙が火口縁上200mまで上がった。
  噴火が発生したのは、2024年９月３日以来。
- 大きな噴石の飛散や空振は観測されていない。
- 噴火の前後で火山活動に特段の変化はみられていない。

2025年12月29日02時08分の噴火の状況（岩ノ上監視カメラ）



1998年１月１日～2026年１月18日

注１ 1998年８月１日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。
注２ 2002年11月16日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。
注３ 気象庁が設置した監視カメラの高感度化により火映の観測が可能となる。

薩摩硫黄島

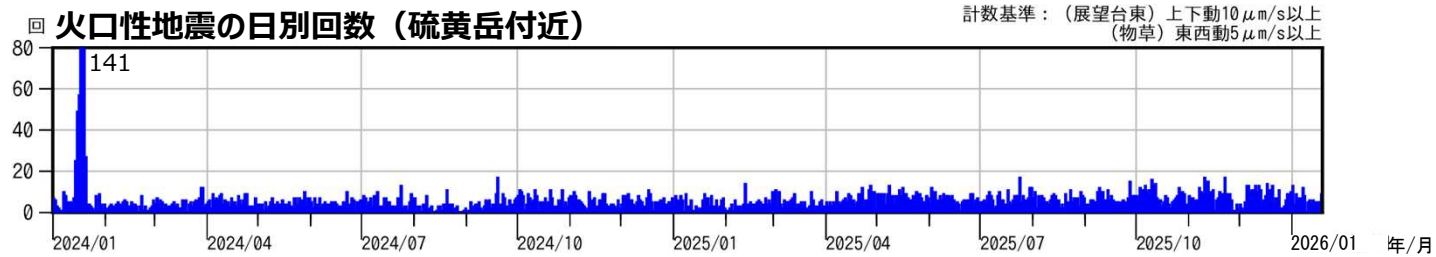
噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

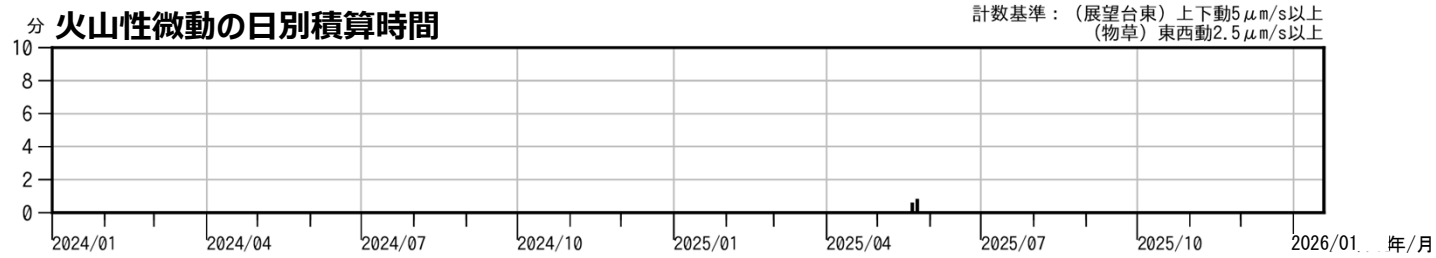
■ 地震・微動

- 火山性地震の回数は、2025年12月が247回、2026年１月が18日までに114回と少ない状態で経過。
- 火山性微動は、2025年５月25日以降観測されていない。

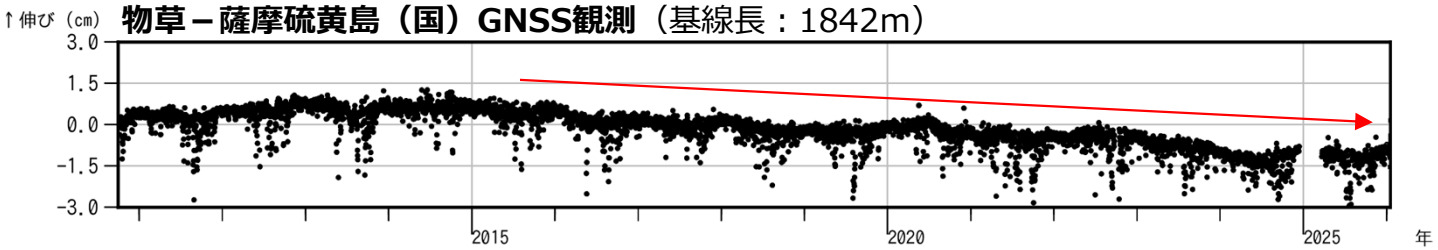
■ GNSS

- 島内の一部の基線で、2015年頃から、薩摩硫黄島と竹島の間の海域を中心とした膨張性の地殻変動に対応するとみられる長期的な縮みの傾向がみられる。

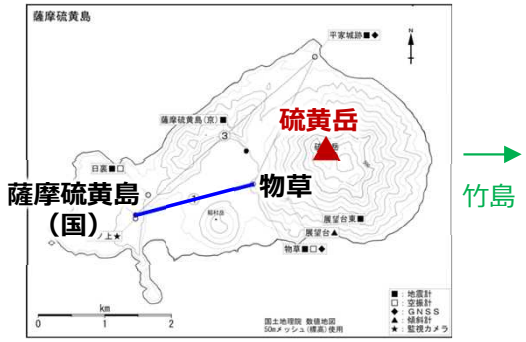




2024年１月１日～2026年１月18日



2010年10月１日～2026年１月18日



GNSS連続観測点と基線
（国）国土地理院

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

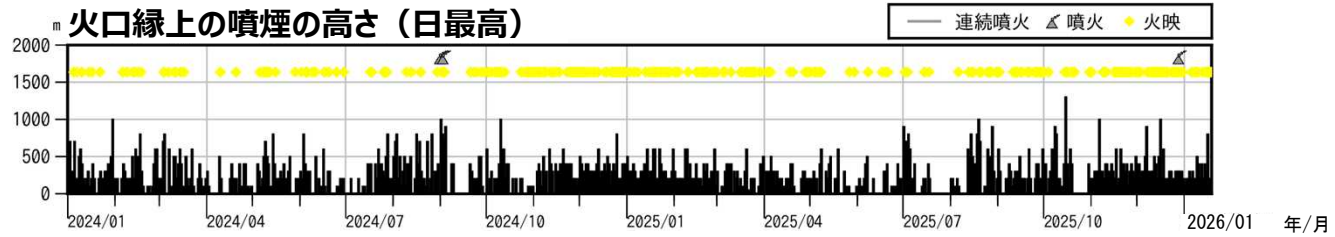
■ 噴煙などの表面現象

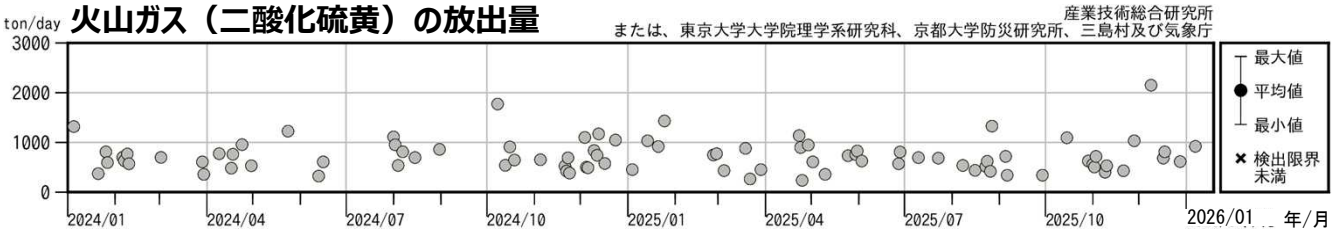
- 2025年12月29日の噴火以外では、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上がる。
- 夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

■ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量

- 2025年12月以降、１日あたり600～2,200トン。長期的には１日あたり1,000トン前後の状態が継続。

2025年12月17日の火映の状況
（岩ノ上監視カメラ）





2024年１月１日～2026年１月18日

長期的には噴煙活動や熱活動が高まった状態が続いていることから、
硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性がある。

薩摩硫黄島　防災上の警戒事項等

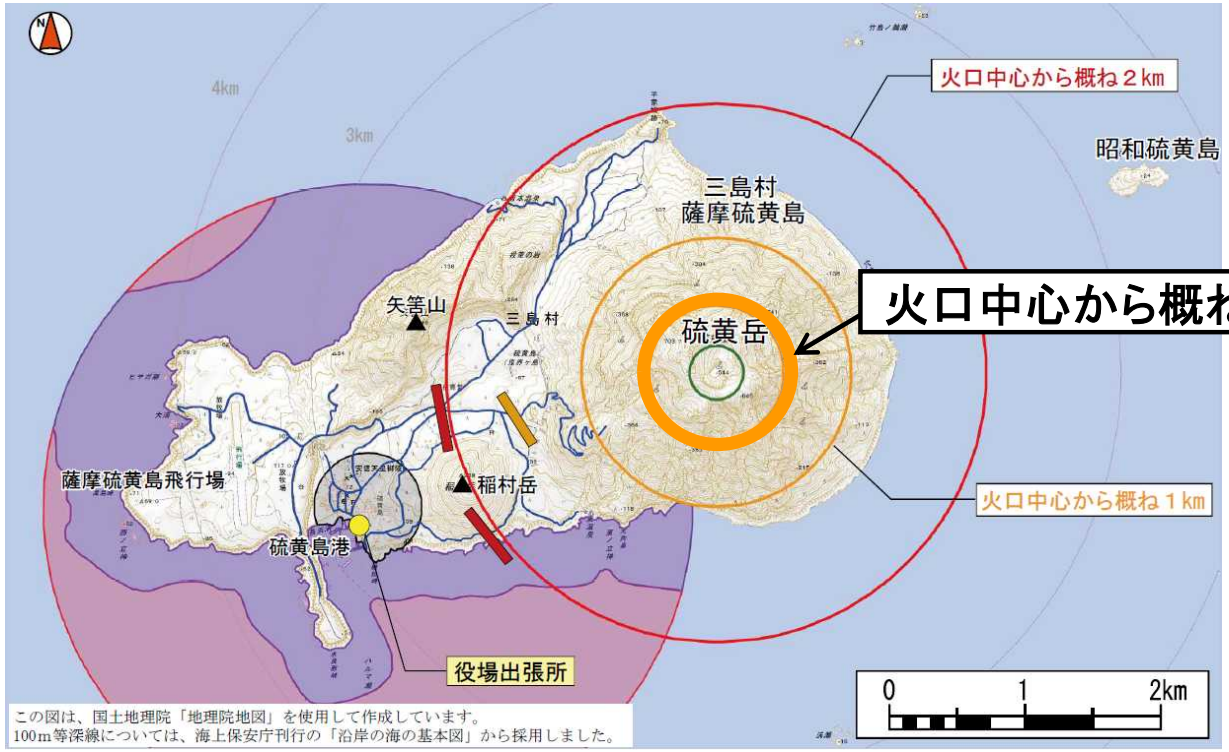
噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



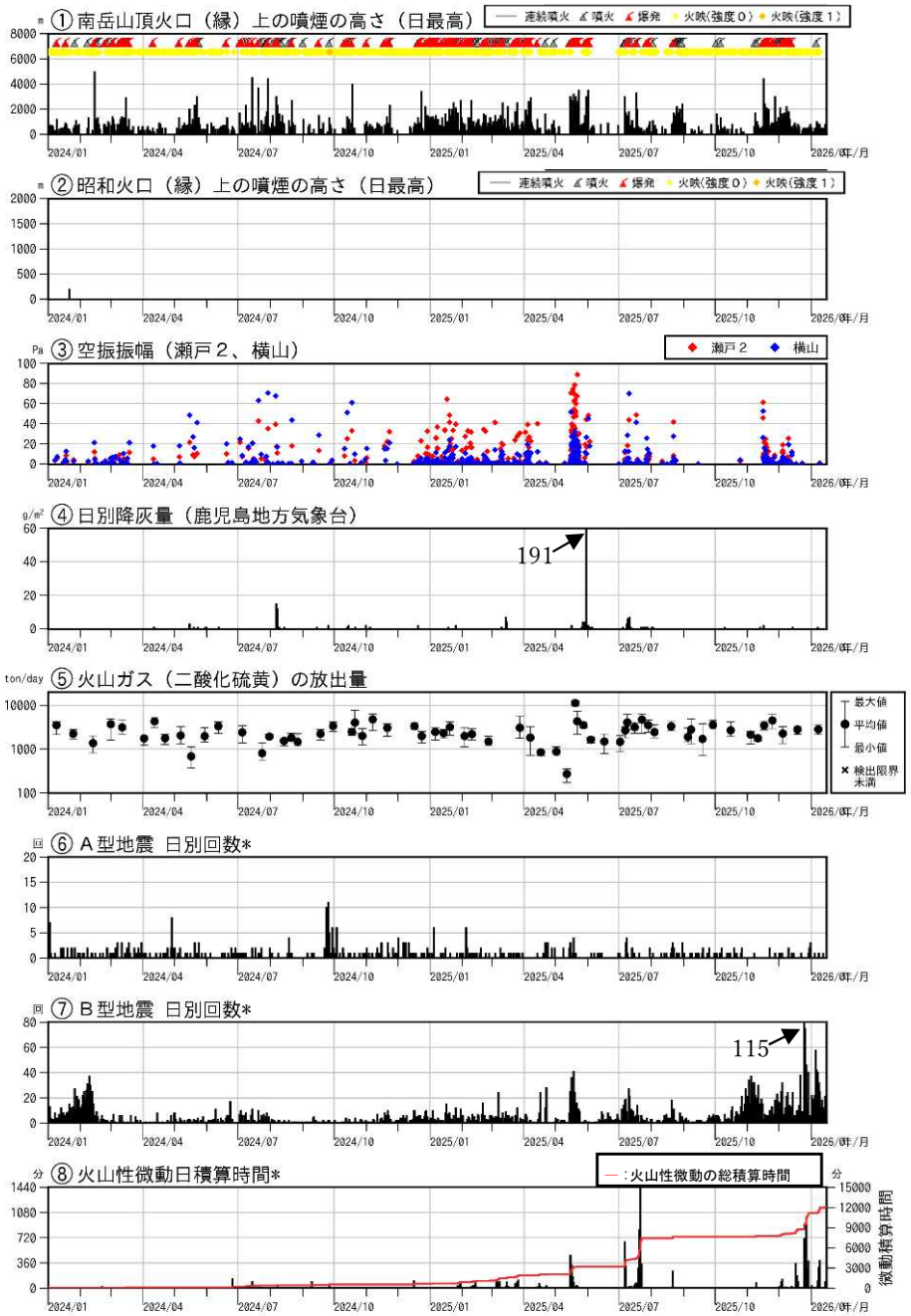
：一般道
：硫黄岳火口
：居住地域
：海域での噴火によりレベル５とする場合の噴火発生場所の範囲（居住地域から概ね２km以内かつ水深約100m以浅）
：海域での噴火によりレベル４とする場合の噴火発生場所の範囲（居住地域から概ね２km以内かつ水深約100m以深）
：レベル３の規制箇所
：レベル２の規制箇所

※海域での噴火の発生の場合、警戒が必要な範囲は噴火の発生場所から概ね２km。

以下、参考資料
（火山の活動状況、用語集など）

桜島　活動状況１

噴火警戒レベル３（入山規制）



＜2025年12月から2026年１月15日までの状況＞

（１月の回数等は速報値）

噴煙等の状況

・南岳山頂火口では、噴火が29回（12月：28回、１月：１回）発生。このうち爆発は12回（12月：12回、１月：０回）。噴煙は最高で火口縁上2,200mまで上昇。弾道を描いて飛散する大きな噴石は、最大で７合目（南岳山頂火口より約700m）まで飛散。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

・昭和火口では、噴火及び爆発の発生はなし。火映の観測はなし。

降灰の状況

・鹿児島地方気象台（東郡元）では、12月に月合計１g/㎡（降灰日数５日）の降灰を観測。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

・１日あたりの放出量は2,300～2,800トン。

・2022年７月以降、概ね多い状態で経過。

火山性地震・火山性微動の状況

・火山性地震は12月25日から27日にかけて一時的にやや多い状態となったものの、期間を通して概ね少ない状態で経過。地震回数は、12月710回で、前月（11月：517回）と比較して増加。

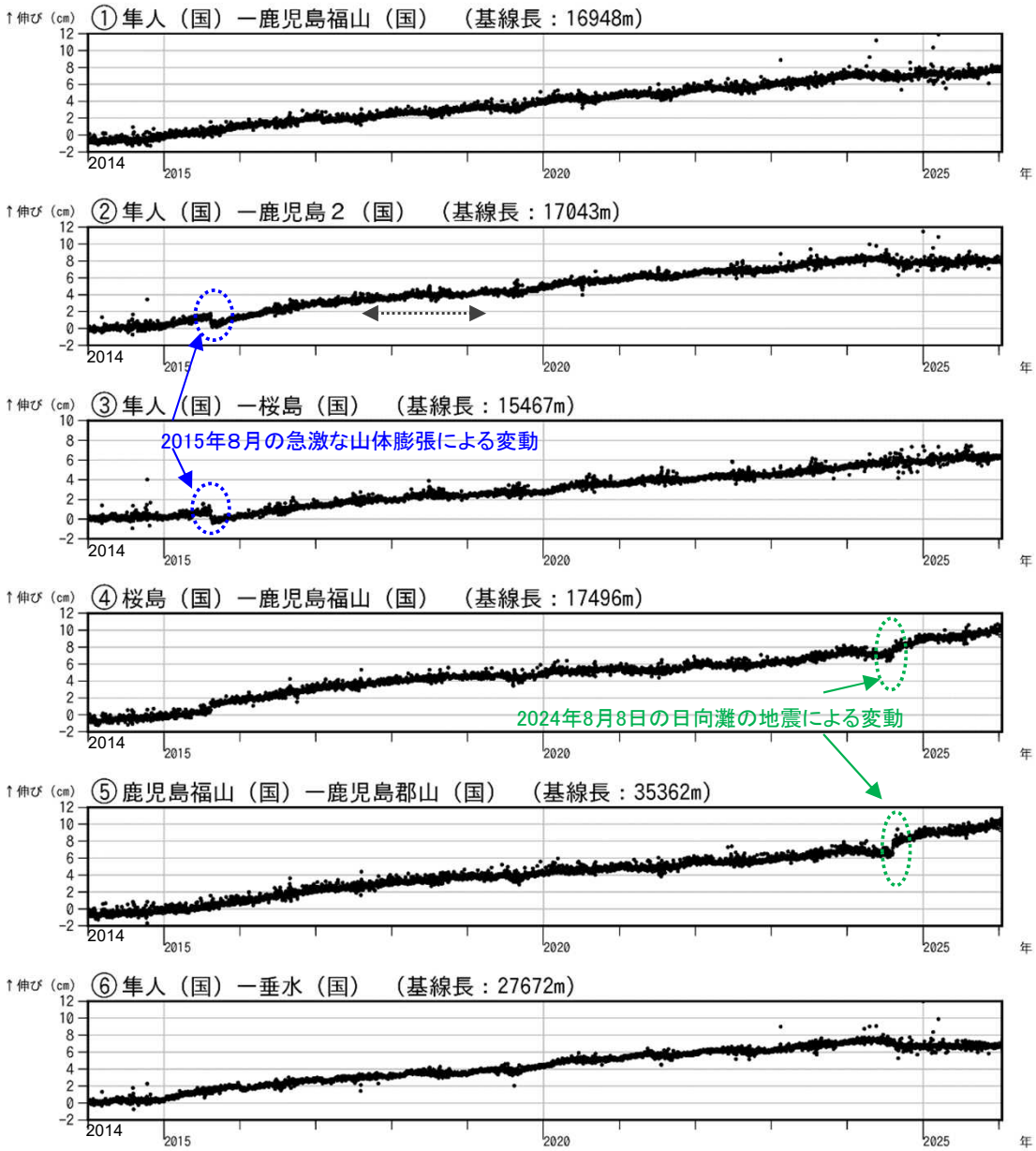
・火山性微動の12月の月合計継続時間は55時間22分で、前月（11月：２時間17分）より増加。

←桜島　火山活動経過図
（2024年１月～2026年１月15日）

※①②では白色及び色不明の噴煙の高さは除く。

※①②で高感度の監視カメラでようやく認められる程度の火映（強度０）を黄色で、現地調査等において肉眼でようやく認められる程度の火映（強度１）を橙色で示す。

桜島　活動状況2



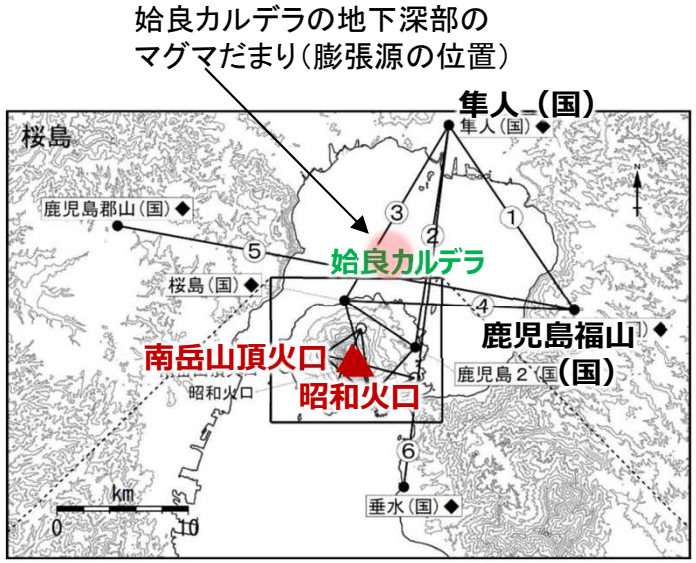
桜島　GNSS連続観測による基線長変化
（2014年１月～2026年１月15日）

＜2025年12月から2026年１月15日までの状況＞

（直近のデータは速報値）

地殻変動の状況

・姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では、長期にわたり姶良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられている。姶良カルデラの地下深部には、マグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられる。



桜島　GNSS連続観測点と基線番号
（①～⑥は、左の基線長変化と対応）
（国）：国土地理院

←・基線の空白部分は欠測を示す。

・基線②は霧島山の深い場所での膨張によるとみられる変動の影響を受けている可能性がある（黒破線矢印期間内）。

桜島　防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3（入山規制）

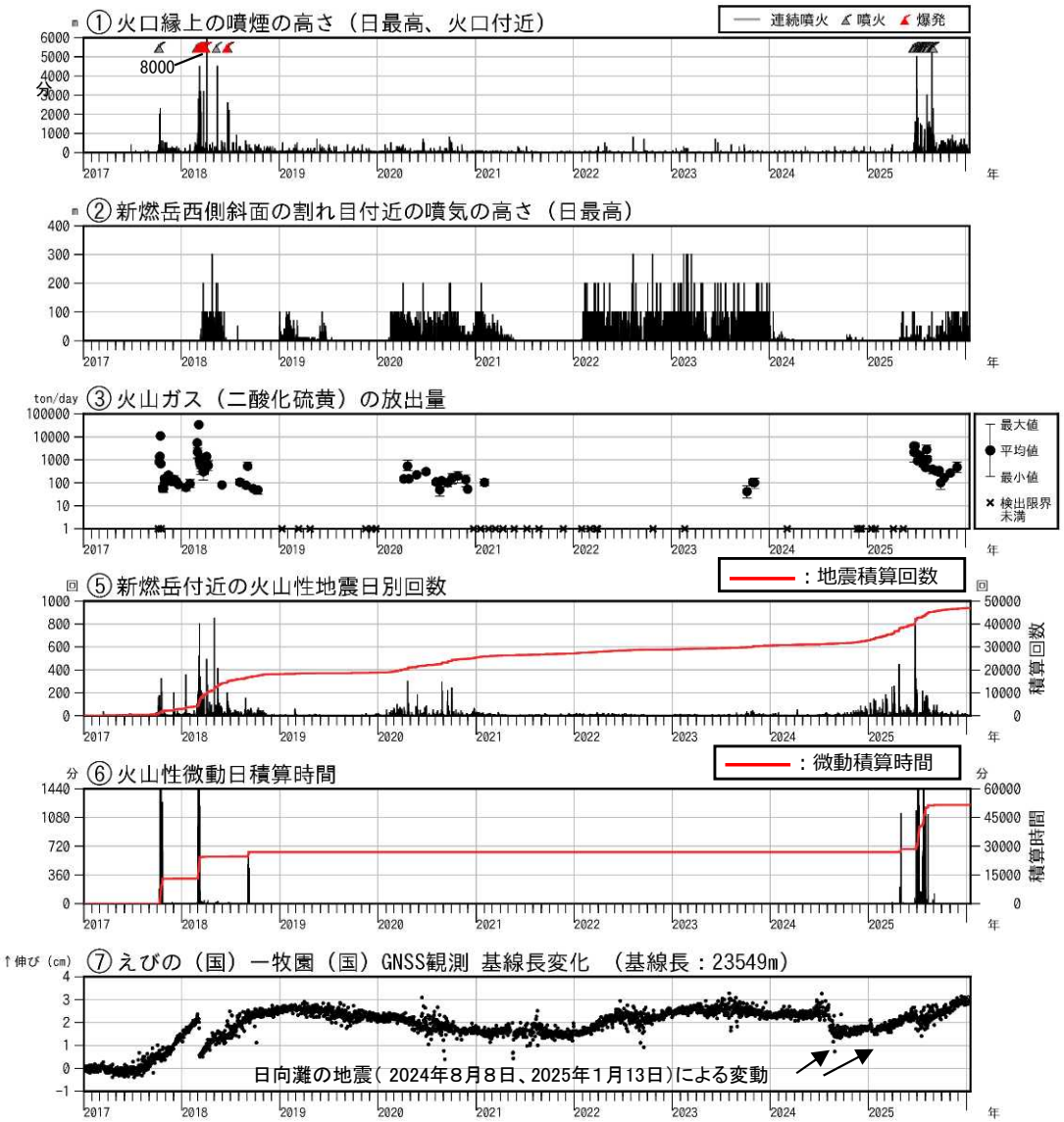
警戒事項
南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- 風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- 爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- 降灰状況により、降雨時に土石流が発生する可能性があるので留意してください。

福岡管区気象台
Fukuoka Regional Headquarters
Japan Meteorological Agency

霧島山（新燃岳） 活動状況1



・新燃岳南西観測点の機器障害により、新燃西（震）観測点、霧島南（震）観測点及び高千穂河原観測点で計数している期間がある。
・⑦の基線の直近の12月中旬以降のデータ（赤破線内）は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがある。

霧島山（新燃岳） 火山活動経過図
（2017年1月～2026年1月15日）

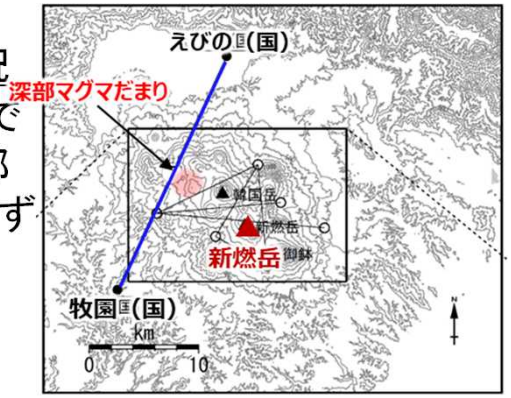
＜2025年12月から2026年1月15日までの状況＞
（1月の回数等は速報値）

噴煙等の状況
- 新燃岳では、9月8日以降噴火は観測されていない。
- 新燃岳火口では、噴煙の高さは火口縁上700m以下で経過。
- 新燃岳西側斜面の割れ目付近では白色の噴気の高さは期間を通して100m以下で経過。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況
- 1日あたりの放出量は500トン（11月300トン）。

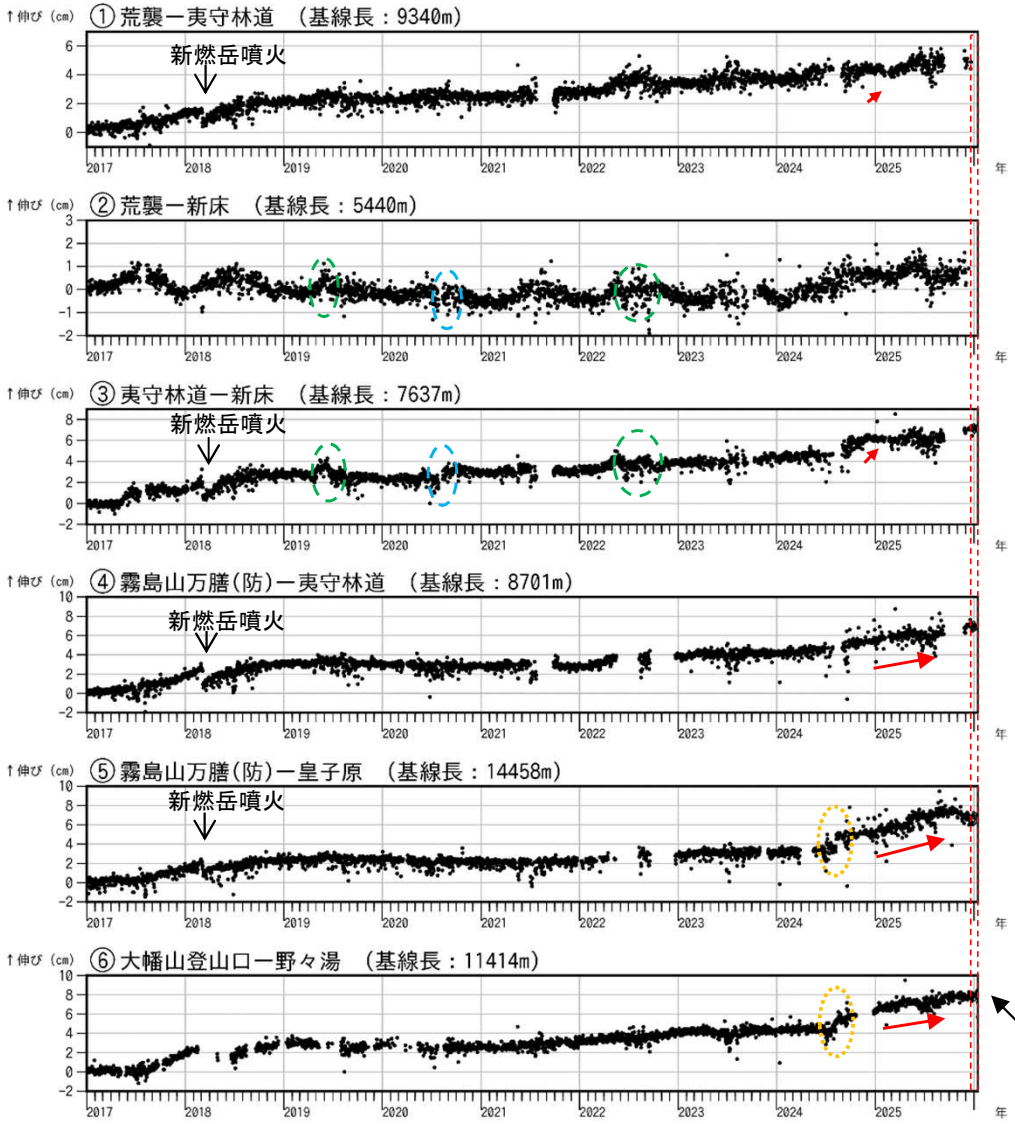
火山性地震・火山性微動の状況
- 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している。
- 今期間は概ね多い状態で経過。火山性地震の12月の月回数は243回（11月327回）、火山性微動は観測されていない。

GNSS連続観測（広域）の状況
- 霧島山を挟む一部の基線で2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。



GNSS連続観測点と基線

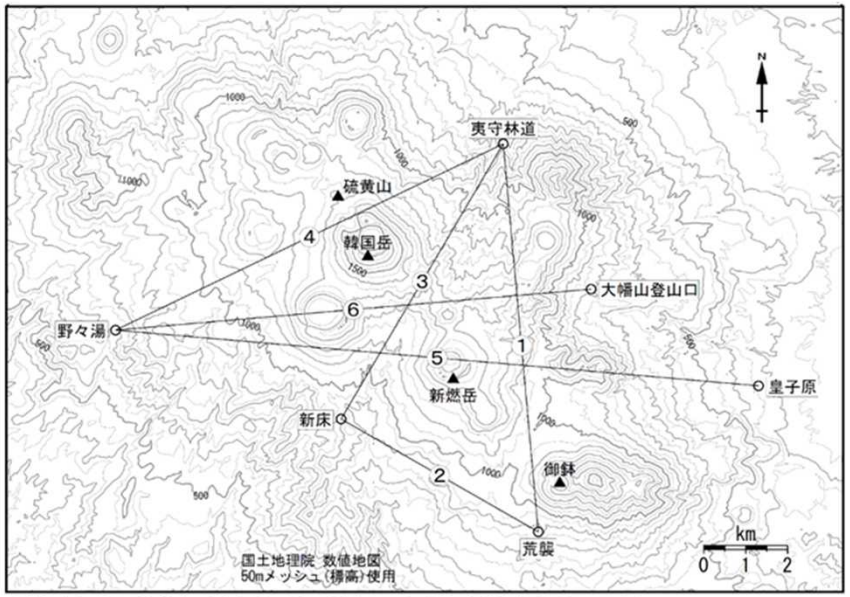
霧島山（新燃岳） 活動状況2



＜2025年12月から2026年１月15日までの状況＞

GNSS連続観測（狭域）の状況

- 2024年11月頃から新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられる基線のわずかな伸びが認められていたが（赤矢印）、2025年７月以降は認められない。なお、④～⑥の基線については、霧島山の深い場所での膨張によるとみられる変動の影響を受けている可能性がある。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院

霧島山（新燃岳） GNSS連続観測点と基線番号

霧島山（新燃岳） GNSS連続観測による基線長変化
（2017年１月～2026年１月15日）

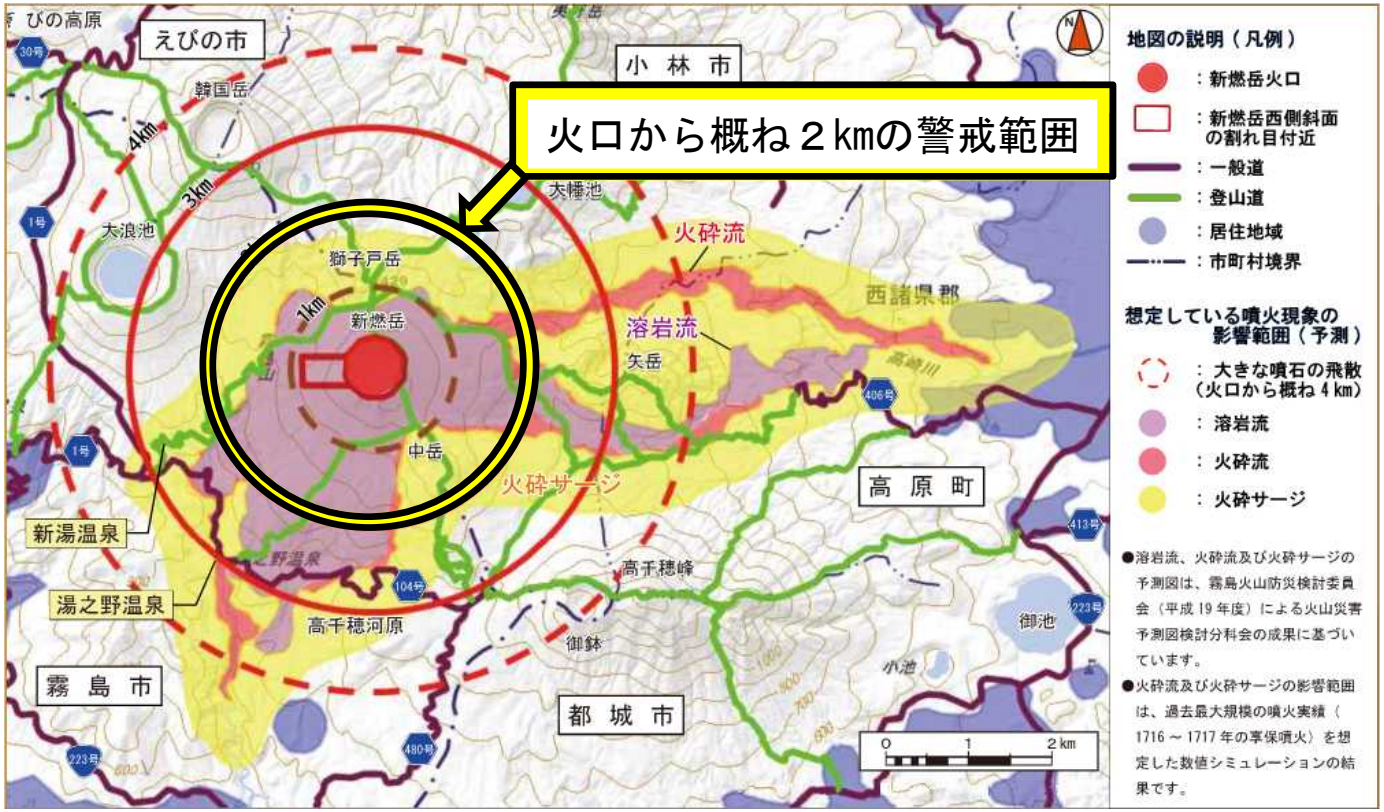
・直近の12月中旬以降のデータ（赤破線内）は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがある。
・基線の空白部分は欠測を示す。
・緑色破線内の変化は、新床観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる。
・水色破線内の変化は、新床観測点のセンサー台交換による局所的な変動による影響と考えられる。
・橙色破線内の変化は、2024年8月8日の日向灘の地震による変動。

霧島山（新燃岳） 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね２ｋｍまで、火砕流が概ね１ｋｍまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね２ｋｍの範囲では警戒してください。

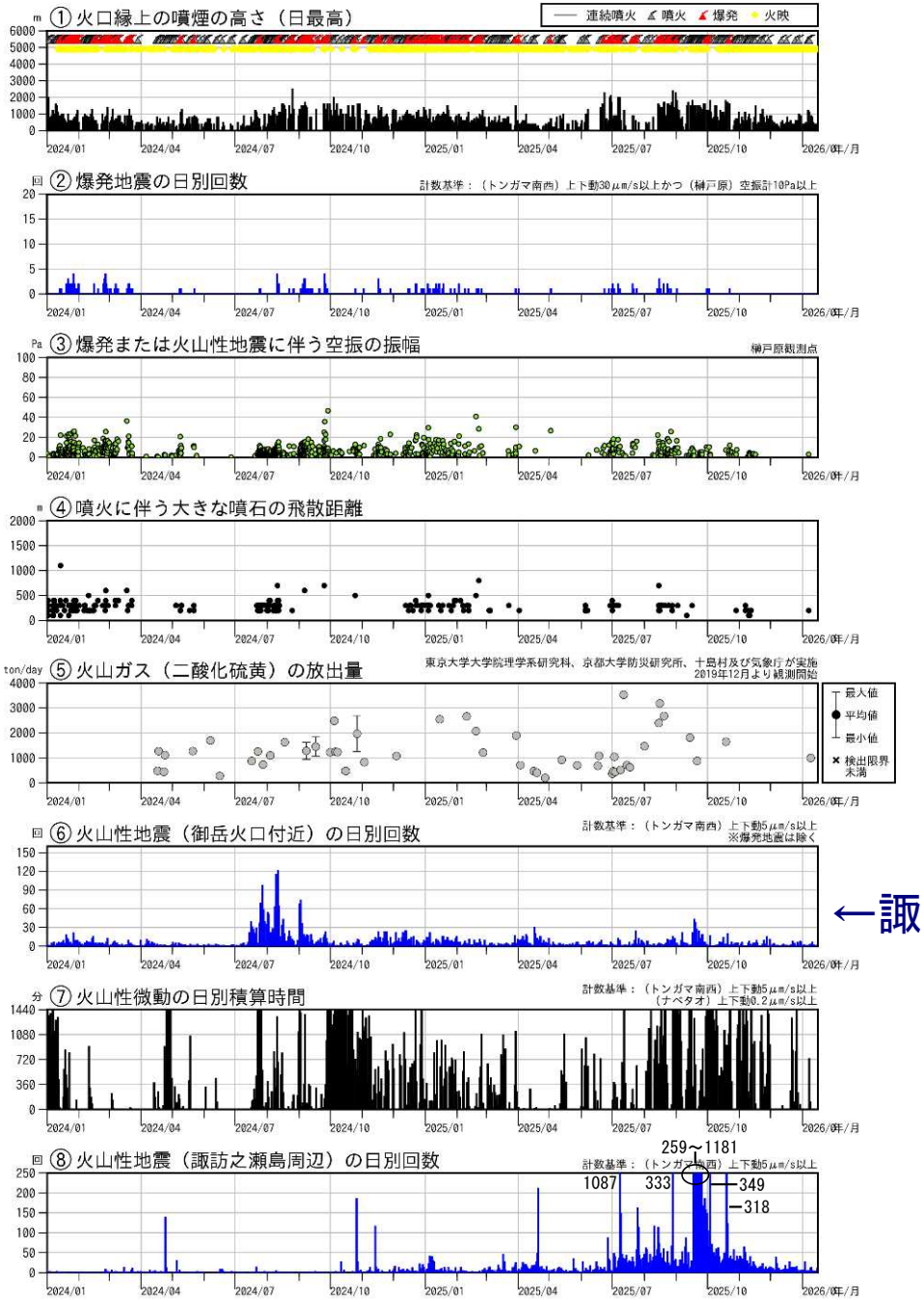


- 風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

福岡管区気象台
Fukuoka Regional Headquarters
Japan Meteorological Agency

諏訪之瀬島 活動状況1 ＜2025年12月から2026年1月15日までの状況＞

（1月の回数等は速報値）



噴煙等の状況

- 噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上1,200mまで上昇。
- 爆発はなし。
- 弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約200m（1/7）まで飛散。
- 御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

- 1日あたりの放出量は1000トン。

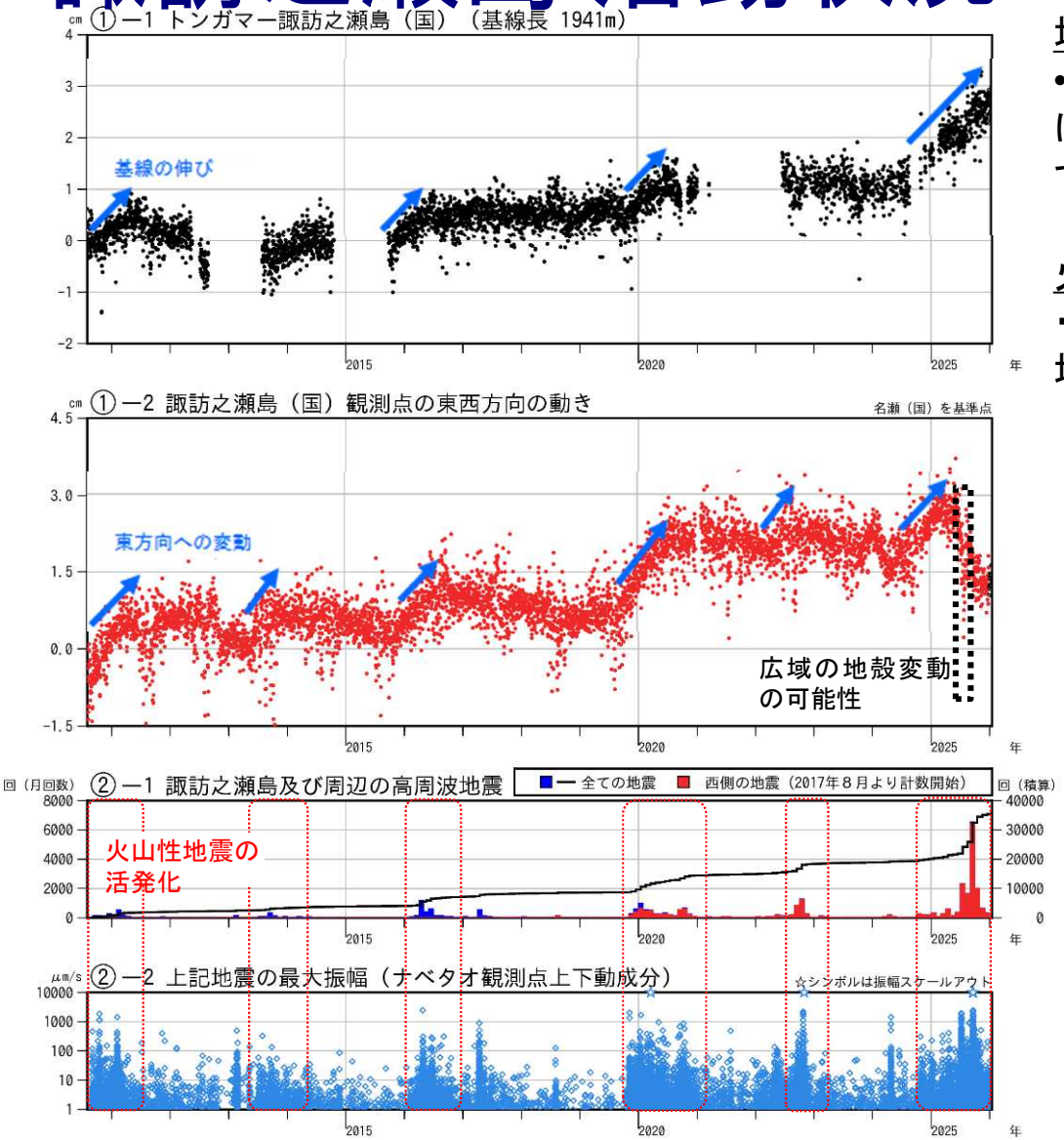
火山性地震等の状況

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は12月332回で前月と比較し減少（11月645回）。中長期的には、2024年10月頃から島の周辺において地震活動が高まっている。
- 御岳火口付近の火山性地震（爆発地震を除く）は、12月61回で、前月と比較して減少（11月96回）。
- 火山性微動は主に噴火に伴い発生。

←諏訪之瀬島　火山活動経過図（2024年1月～2026年1月15日）

・2024年8月29日から12月3日まで、及び2025年9月10日から10月13日まで、寄木カメラ障害のため噴煙の最高高度が観測できていない可能性がある。
・火山ガス放出量は噴火の直後に計測した場合、値が大きくなり、噴火の発生前に計測した場合には小さくなる傾向がある。
・トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間がある。

諏訪之瀬島 活動状況2

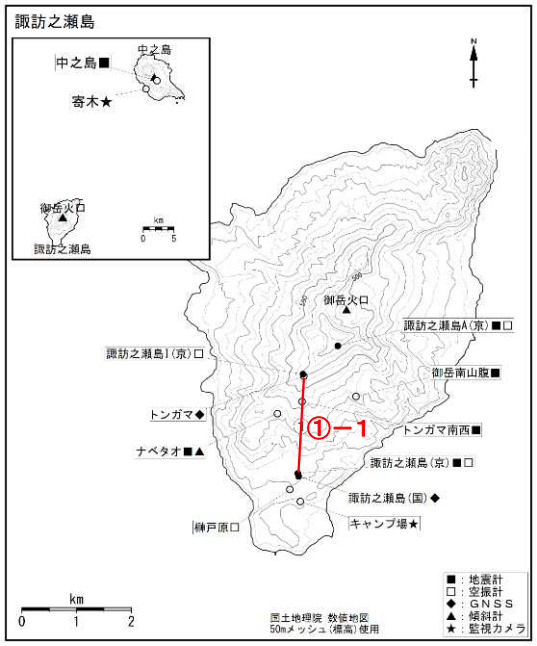


地殻変動の状況

•GNSS連続観測では、2024年10月以降、島の西側におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められていたが、2025年11月頃から停滞。

火山性地震の状況

・中長期的には、2024年10月頃から島の周辺において地震活動が高まっている。



GNSS連続観測と周辺の火山性地震（2010年８月～2026年１月15日）

①-1の基線は右図①-1に対応。空白部分は欠測を示す。2024年９月１日の観測点修繕工事（トンガマ観測点）に伴うステップを補正している。
①-2は島外の観測点(名瀬（国))を固定した観測点の東西の変動を示す。
（国）：国土地理院

観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号

GNSS基線長図（左図①－1）の基線を赤線で示す。

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
（国）：国土地理院、（京）：京都大学

諏訪之瀬島　防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒事項

　御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

火口から概ね1.5kmの警戒範囲

- ：一般道
- ：登山道
- ：御岳火口
- ：居住地域
- ：レベル３の規制箇所
- ：レベル２の規制箇所

・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
  - **・大きな噴石**：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
  - **・小さな噴石**：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測**：GNSS（全球測位衛星システム：Global Navigation Satellite Systems）の受信機を用いて連続的に地表の動き（地殻変動）を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html

噴火警戒レベルの判定基準リンク集

（主に警報発表火山のみ）

- 霧島山（新燃岳）

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf

- 桜島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf

- 薩摩硫黄島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf

- 諏訪之瀬島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html